

長崎港常盤・出島地区及び周辺地域における緑地の現状と課題

長崎大学工学部 正 後藤 恵之輔 日本設計(株) 正 横松 宗治

長崎大学工学部 学○松石 耕太 長崎大学工学部 学 川内 透

1. はじめに

昭和61年3月、重工業の沈滞に伴い、長崎再生に向けての都市経営戦略として、「ナガサキ・アーバン・ルネッサンス2001構想」が策定された¹⁾。この計画では、長崎港常盤・出島地区に、港湾のシンボル緑地、防災緑地としてのオープンスペースであるシーサイドパーク、修景緑地であり長崎の新たな観光動線として都市に潤いをあたえる水辺のプロムナードが完成する予定である²⁾。常盤・出島地区は、異国情緒溢れる場との関連を考え、日常のウォーターフロントとして、さらに観光名所としても永く親しまれることが期待される。

この計画地が「ビオトープ」としての役割を果たすためにも、周辺地域の緑地の現状を知り、緑地の繋がりとしての緑化計画を進めていく必要があると考えられる。本研究は、常盤・出島地区及び周辺地域の緑化計画を考えることにより、今後のまちづくりの方向性を探るものである。

2. 常盤・出島地区及び周辺地域の緑地の現状

一般的に都市化は100m等高線以内まで及んでいるといわれるが、長崎市も例外ではなく、100m等高線より下位に計画地を中心とした半径1500mの円が納まる。今回、現地の緑地調査を行うにあたって、計画地から半径約1500m以内に当たる風頭山、どんの山、鍋冠山の三つの山の方角までを調査地域とした。

計画地を始点として上記三つの山に向かって三方向に分けて分析すると、風頭山方向では、県庁坂、県庁裏通り、思案橋通りに大きな街路樹が存在する。この方向には寺社が多く、公園に十分な敷地を持ってない長崎市にとっては公園としての機能を果たしていると考えられる。

どんの山方向では、オランダ通りの街路樹やオランダ坂には十分な緑地が存在するが、十人町、館内町などの住宅密集地では、路地は細く、公園も狭いため緑に乏しい。

鍋冠山方向では、グラバー園、大浦天主堂などの観光施設があり、広い敷地を持ち、なおかつ緑も多い。個人宅の敷地にも大きな樹木や生け垣が多い。国道沿いの街路樹は豊富ではあるが、計画地に近づくにつれて乏しくなっている。

以上のように三方向から現状をみてきたが、全体としては、三つの山が存在するため緑が豊富であるといえるが、計画地に近づくにつれて、広い敷地を持つ緑地公園などは稀であり、住宅密集地では個人宅の庭と小さな公園にわずかな緑が存在する程度である。

また、それぞれの緑地が散在し、緑地の繋がりを持たないことが問題である。

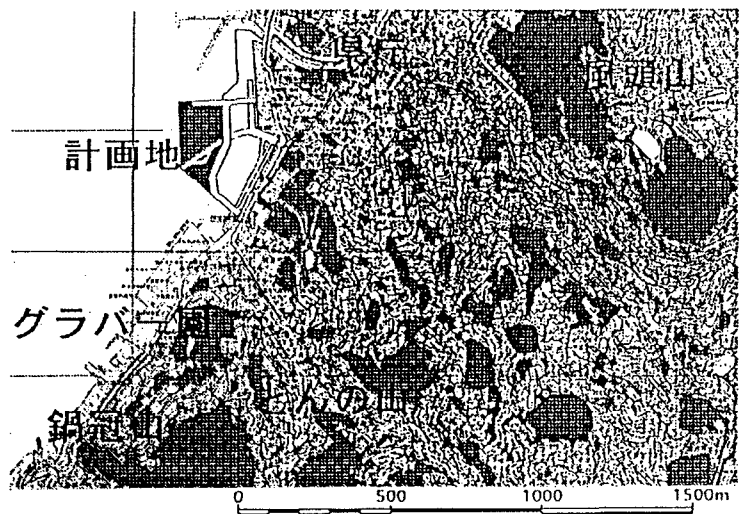


図-1 緑地分布図

3. 大浦海岸通りの緑化

図-2に大浦海岸通りの緑化案を示す。この通りは、計画地に面しているが道路幅が広く、植栽が少ない。

計画地の緑地が「ビオトープ」として機能するためには、散在する都市公園、私的な庭園などを「ビオコリドー」によって繋げていくことが必要である。

計画地を含んだ常盤・出島地区において「ビオコリドー」として緑化可能であると考えられることを以下に提案したい。

(1) 電車軌道敷の緑化

大浦海岸通りの電車軌道敷を芝で緑化し、中央分離帯に植栽を施す。

(2) 国道の緑化

図-2のように車道に膨らみをつけ植栽を施すことで、環境面のみならず、安全面にも優れた空間が可能となる。

上記(1)(2)から計画地の緑地→街路樹→車道の植栽→電車軌道敷の芝→車道の植栽→街路樹といった緑の繋がりが可能となる。

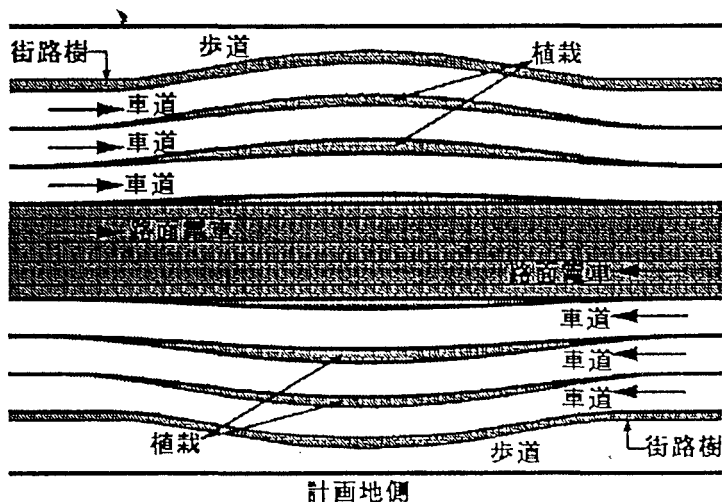


図-2 大浦海岸通りの緑化案

4. 個人宅などの生け垣化

長崎市内では、住宅が密集しており、路地も狭く、公園に十分な空間を持ってない地域が多い。このような地域では、個人宅の生け垣化を積極的に進めていくことで緑地が増すとともに、防災上の機能を期待することもできる。

5. まとめ

今回の研究によって、緑が豊富であるように見える長崎市でも、常盤・出島地区に着目すると、緑地は決して豊富とは言えないことが明らかとなった。常盤・出島地区再開発事業では、広い水面の中に人間が立ち入れない島を設ける計画がある。この島で、生物は都市内の人為的な圧力から逃避し休息することができる。この新しい生物拠点を生かすためにも、常盤・出島地区に「ビオトープ」、「ビオコリドー」としての役割を果たせるさらなる緑地空間を設けることが必要不可欠と言える。

現在の長崎市において、大きな「ビオトープ」を創造することは困難である。しかし、街路樹を増やす、建物の壁面を緑化する、屋上に庭園を造るといった工夫で、狭い空間でも緑地を造ることは十分可能である。今後の計画においては、本研究で述べたように、人間のみならず他の生物にとっても環境豊かな緑地になっていくことが望まれる。

参考文献

- 1) (財)港湾空間高度化センター：コンベンション拠点地区(常盤・出島)整備基本構想検討調査報告書, p. 1, 1994. 3.
- 2) (財)港湾空間高度化センター 港湾・海域環境研究所：「長崎港緑地検討」平成8年度第1回検討委員会資料, p. 4, 1996. 11.